

1.2.3 映画の一場面 ～ラビリンス/魔王の迷宮～

1986年に制作されたアメリカ映画「ラビリンス/魔王の迷宮」の中に、迷路の中をさまよっている主人公が、赤いドアか青いドアのどちらかを選択しなければならない場面があった。ドアの向こう側は一方が王宮へ、もう一つは魔界の沼に続いている。それぞれのドアには門番がいて片方は正直者で質問に対して必ず正しい答えを、もう片方はウソつきで必ず間違った答えを答える。どちらが正直者かウソつきかはわからない。質問は1回限りで、片方の門番にしかできない。質問された門番は Yes か No で答えるという設定である。ここで主人公は赤いドアの門番に向かって

「彼(青色のドアの門番)はこちらのドアが正しいドアだと言うかしら。」

と尋ねた。尋ねられた門番は

「Yes」

と答えた。そこで主人公は青い門番のドアを開けて進んでいった。
この場面を考察してみよう。



場合	正しいドア	赤いドアの門番	青いドアの門番	赤いドアの門番の返答
	赤いドア	正直者	ウソつき	No
	青いドア	正直者	ウソつき	Yes
	赤いドア	ウソつき	正直者	No
	青いドア	ウソつき	正直者	Yes

、 の場合、青いドアの門番はウソつきなので逆のことを答えることから、正直者の赤いドアの門番は、 の場合は No。 は Yes。

、 の場合、青いドアの門番は正直者なので の場合は正しい答えは Yes だが、赤いドアの門番はウソつきなので No と答え、 は正しい答え No を Yes と答える。

まとめると、Yes と答えたらドアを変更し、No と答えたらそのまま進めば良いことが分かる。このことから映画の中の主人公は正しい判断をしたことがわかる。挿入した写真は映画公開30周年を記念して $\frac{1}{6}$ のスケールで発売されていた、別の2つのドアを飾っていた耳が遠い豚のノッカーとモゴモゴしゃべる豚のノッカーで、こちらは「ドアのノッカーがドアの向こう側のことを知るわけないだろう。」と冷たい言葉で主人公に話しかけていた。